

# 形成外科

最近では形成外科を掲げる病院も増えてきていますが、実際のところ「形成外科でどういう疾患を扱っているのかよくわからない」という方が多いと思います。今回は形成外科の紹介と、当院でよく扱う疾患の紹介をします。

## 1.当院の形成外科医

◆馬本 直樹 形成外科部長  
専門：形成外科一般

◆金崎 茉耶 医師  
専門：形成外科一般、マイクロサージャリー、手外科診療

このほか非常勤医師の中山 凱夫医師(筑波大学名誉教授)、井口 聖一医師(いぐち皮フ科形成外科クリニック 院長)、藤田 悠気医師(城本クリニック柏 院長)が担当しております。

【認定資格】日本専門医機構認定形成外科専門医

## 2.形成外科について(得意な疾患・治療法)

形成外科は、体の表面の病気やけがを扱います。大きく分けて以下の3つの分野があります。

**【形成外科】** 顔面や手先足先のけが、やけどやきずあと、あざ、体の表面のしこり

**【再建外科】** 組織欠損(がんや生まれつきの障害で体の一部が失われている場合)

**【美容外科】** しわ・たるみ、しみ、まぶたの下垂など

当院はいずれの分野も対応しています。(ちなみによく間違われる整形外科は、腕や脚・首や腰などの骨や筋肉、神経を扱います。)

当科は1994年、開設当時から**あざやしみのレーザー治療**を行っています。

パルス色素レーザー(赤あざ用)、ルビーレーザー(青・茶あざ用)、炭酸ガスレーザー(いぼ用)の3台を使い分けています。基本は保険診療ですが、自費になる場合もあります。

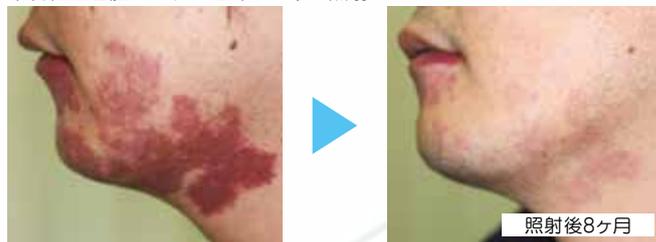
**対象疾患** 青あざ(太田母斑、もうこ斑)、赤あざ(血管腫)  
茶あざ(扁平母斑、老人性しみ)、ほくろ、いぼ

また、近隣の小児科と連携し、**乳児血管腫(いちご状血管腫)の薬物内服治療**を積極的に行っています。生後早期からの治療が必要なため、地域の先生方のご協力のもと、症例を増やしています。そのほか、上で紹介した形成外科一般の疾患も扱っています。

老人性色素斑：ルビーレーザー照射



単純性血管腫：パルス色素レーザー照射



広範囲色素性母斑：腫瘍切除と皮弁形成



まぶたが下がってものが見えにくい ≡ 加齢性眼瞼下垂症？

年を重ねるとよく見られる現象ですが、がんばって眼を開けようとすると、額の筋肉が過剰に働いて首や肩の筋肉にも負担がかかります。また、まぶたが下がる内科的な病気が隠れていることもあります。内科の先生と連携して隠れた病気の有無をチェックし、問題がない場合は加齢性の眼瞼下垂症と判断し手術を行います。局部麻酔の日帰り手術で、かかる時間は30分から1時間です。手術直後から眼が開けやすくなったことが実感できると思います。通院も週に1回程度です。該当する症状をお持ちの方は受診を検討してみてください。

形成外科

詳細はホームページをご確認ください。多数の症例写真を掲載しております。



## 3.診療科からのメッセージ

患者さまへ

皆さまの日常の不便を、手術などで解決できればと考えながら診療しています。患者さまからの「日赤の形成外科にかかってよかった」という笑顔を励みにしています。気になることがあればぜひ気軽にご相談ください。